

第3編

治安に関する認識

第3編 治安に関する認識

治安に関する認識については、①居住地域における犯罪被害に対する不安及び②我が国の治安に関する認識に分けて調査した。前者は、夜間の一人歩きに対する不安（個人犯罪被害に対する不安）及び不法侵入の被害に遭う不安（世帯犯罪被害に対する不安）を、後者は、我が国の治安に関するイメージをそれぞれ内容としている。第1編第2章で、前者及び後者の経年比較を示したので、本編は、第4回調査結果を、それぞれ属性等別に分析するとともに、前者及び後者の関係について検討する。

第1節 居住地域における犯罪被害に対する不安

本節では、居住地域における犯罪被害に対する不安として、夜間の一人歩きに対する不安（個人犯罪被害に対する不安）及び不法侵入の被害に遭う不安（世帯犯罪被害に対する不安）を取り上げて、都市規模別、世帯人数別等に分析し、それぞれの不安に影響を与えている要因についても検討する。

なお、前者は、①「暗くなった後、あなたの住んでいる地域を一人で歩いているとき、どの程度安全であると感じますか。」の項目を、後者は、②「今後1年間のうちに、誰かがあなたの自宅に侵入する可能性について、どのように思われますか。」の項目をそれぞれ使用した。

1 夜間の一人歩きに対する不安

夜間の一人歩きに対する不安について、都市規模別に見ると、特に関係は見られなかった（3-1-1-1-1表）。

夜間の一人歩きに対する不安について、世帯人数別に見ると、3-1-1-1-2表のとおりであり、世帯人数が2人の「まあまあ安全」、4人の「やや危ない」及び5人以上の「とても危ない」が、それぞれ有意に高かった。

3-1-1-1-1表 都市規模別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
政令指定都市	36 (6.8) [0.5]	325 (61.3) [0.1]	151 (28.5) [-0.1]	18 (3.4) [-0.8]	530 (100.0)	$\chi^2(6)=1.784$ p=0.938
政令指定都市を除く人口10万人以上の市	56 (6.1) [-0.3]	559 (61.4) [0.3]	262 (28.8) [0.1]	34 (3.7) [-0.5]	911 (100.0)	
人口10万人未満の市町村	41 (6.2) [-0.1]	398 (60.4) [-0.4]	189 (28.7) [0.0]	31 (4.7) [1.2]	659 (100.0)	
計	133 (6.3)	1,282 (61.0)	602 (28.7)	83 (4.0)	2,100 (100.0)	

注 1 夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-1-2表 世帯人数別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
1人	12 (6.0) [-0.2]	134 (67.3) [1.9]	51 (25.6) [-1.0]	2 (1.0) [-2.2]	199 (100.0)	$\chi^2(12)=30.822$ p=0.002**
2人	43 (7.6) [1.4]	367 (64.8) [2.2]	138 (24.4) [-2.6]	18 (3.2) [-1.1]	566 (100.0)	
3人	30 (6.0) [-0.4]	311 (62.3) [0.7]	137 (27.5) [-0.7]	21 (4.2) [0.3]	499 (100.0)	
4人	29 (6.1) [-0.3]	257 (53.9) [-3.7]	170 (35.6) [3.9]	21 (4.4) [0.6]	477 (100.0)	
5人以上	18 (5.4) [-0.8]	196 (59.2) [-0.7]	97 (29.3) [0.3]	20 (6.0) [2.1]	331 (100.0)	
計	132 (6.4)	1,265 (61.1)	593 (28.6)	82 (4.0)	2,072 (100.0)	

注 1 世帯人数又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、住居形態別に見ると、特に関係は見られなかった(3-1-1-1-3表)。

3-1-1-1-3表 住居形態別夜間の一人歩きに対する不安

区分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
アパート等	42 (8.0) [1.9]	311 (59.6) [-0.8]	151 (28.9) [0.1]	18 (3.4) [-0.7]	522 (100.0)	$\chi^2(6)=6.362$ p=0.384
一戸建て	88 (5.7) [-1.8]	944 (61.3) [0.5]	442 (28.7) [0.1]	65 (4.2) [1.0]	1,539 (100.0)	
その他	2 (5.9) [-0.1]	24 (70.6) [1.1]	8 (23.5) [-0.7]	- [-1.2]	34 (100.0)	
計	132 (6.3)	1,279 (61.1)	601 (28.7)	83 (4.0)	2,095 (100.0)	

注 1 住居形態又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。
 2 「その他」は、病院、老人ホーム等の公共施設を含む。
 3 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、男女別に見ると、3-1-1-1-4表のとおりであり、男性の「とても安全」及び「まあまあ安全」並びに女性の「やや危ない」及び「とても危ない」が、有意に高かった。

3-1-1-1-4表 男女別夜間の一人歩きに対する不安

区分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
男性	102 (10.2) [6.9]	651 (64.8) [3.5]	220 (21.9) [-6.6]	31 (3.1) [-2.0]	1,004 (100.0)	$\chi^2(3)=83.950$ p=0.000**
女性	31 (2.8) [-6.9]	625 (57.3) [-3.5]	382 (35.0) [6.6]	52 (4.8) [2.0]	1,090 (100.0)	
計	133 (6.4)	1,276 (60.9)	602 (28.7)	83 (4.0)	2,094 (100.0)	

注 1 性別又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。
 2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、年齢層別に見ると、3-1-1-1-5表のとおりであり、39歳以下の「やや危ない」、40～59歳の「とても危ない」及び60歳以上の「まあまあ安全」が、有意に高かった。

3-1-1-1-5表 年齢層別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
39歳以下	37 (7.1) [0.8]	291 (55.6) [-3.0]	172 (32.9) [2.5]	23 (4.4) [0.6]	523 (100.0)	$\chi^2(6)=35.563$ p=0.000**
40～59歳	34 (4.9) [-1.9]	405 (58.3) [-1.9]	216 (31.1) [1.7]	40 (5.8) [3.0]	695 (100.0)	
60歳以上	60 (7.1) [1.2]	564 (66.7) [4.4]	203 (24.0) [-3.9]	18 (2.1) [-3.5]	845 (100.0)	
計	131 (6.3)	1,260 (61.1)	591 (28.6)	81 (3.9)	2,063 (100.0)	

注 1 年齢又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、就業状況別に見ると、3-1-1-1-6表のとおりであり、働いている者の「とても安全」及び「とても危ない」、主婦・主夫の「やや危ない」並びに無職・定年の「まあまあ安全」が、有意に高かった。なお、主婦・主夫は、女性が450名を占めている。

働いている者では、安心を示す「とても安全」(75人)は、男性61人及び女性14人であり、不安を示す「とても危ない」(54人)は、男性25人及び女性29人であり、男性の「とても安全」及び女性の「とても危ない」が有意に高かった。

3-1-1-1-6表 就業状況別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
働いている	75 (7.3) [2.1]	613 (59.3) [-1.7]	292 (28.2) [-0.6]	54 (5.2) [3.1]	1,034 (100.0)	$\chi^2(12)=49.205$ p=0.000**
主婦・主夫	11 (2.4) [-3.8]	272 (59.5) [-0.8]	158 (34.6) [3.1]	16 (3.5) [-0.5]	457 (100.0)	
無職・定年	27 (7.7) [1.3]	244 (69.3) [3.5]	79 (22.4) [-2.9]	2 (0.6) [-3.5]	352 (100.0)	
学生	11 (9.2) [1.4]	70 (58.3) [-0.7]	36 (30.0) [0.3]	3 (2.5) [-0.8]	120 (100.0)	
その他	2 (2.2) [-1.6]	57 (62.6) [0.3]	27 (29.7) [0.2]	5 (5.5) [0.8]	91 (100.0)	
計	126 (6.1)	1,256 (61.1)	592 (28.8)	80 (3.9)	2,054 (100.0)	

注 1 就業状況又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、婚姻状況別に見ると、3-1-1-1-7表のとおりであり、既婚・同棲の「とても危ない」及び配偶者死亡の「まあまあ安全」が、有意に高かった。

3-1-1-1-7表 婚姻状況別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
独身	33 (8.2) [1.8]	253 (62.8) [0.8]	105 (26.1) [-1.4]	12 (3.0) [-1.1]	403 (100.0)	$\chi^2(9)=19.761$ p=0.019*
既婚・同棲	87 (6.1) [-0.4]	846 (59.4) [-2.3]	427 (30.0) [1.8]	65 (4.6) [2.3]	1,425 (100.0)	
離婚・別居	5 (5.3) [-0.4]	58 (61.7) [0.1]	30 (31.9) [0.7]	1 (1.1) [-1.5]	94 (100.0)	
配偶者死亡	3 (2.4) [-1.8]	91 (74.0) [3.0]	27 (22.0) [-1.7]	2 (1.6) [-1.3]	123 (100.0)	
計	128 (6.3)	1,248 (61.0)	589 (28.8)	80 (3.9)	2,045 (100.0)	

注 1 婚姻状況又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。
 2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、全犯罪被害の有無（全犯罪被害のうち、いずれかの被害有無）別に見ると、3-1-1-1-8表のとおりであり、全犯罪被害がない者の「とても安全」及び「まあまあ安全」並びに全犯罪被害がある者の「やや危ない」及び「とても危ない」が、それぞれ有意に高かった。

3-1-1-1-8表 全犯罪被害の有無別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
全犯罪被害なし	101 (7.9) [3.6]	809 (63.2) [2.9]	332 (25.9) [-3.7]	38 (3.0) [-3.2]	1,280 (100.0)	$\chi^2(3)=35.014$ p=0.000**
全犯罪被害あり	28 (3.8) [-3.6]	414 (56.6) [-2.9]	247 (33.7) [3.7]	43 (5.9) [3.2]	732 (100.0)	
計	129 (6.4)	1,223 (60.8)	579 (28.8)	81 (4.0)	2,012 (100.0)	

注 1 全犯罪被害の有無又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。
 2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、世帯犯罪被害の有無別に見ると、3-1-1-1-9表のとおりで

あり、世帯犯罪被害がない者の「とても安全」及び「まあまあ安全」並びに世帯犯罪被害がある者の「やや危ない」及び「とても危ない」が、それぞれ有意に高かった。

3-1-1-1-9表 世帯犯罪被害の有無別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
世帯犯罪被害なし	106 (7.8) [3.5]	859 (63.2) [2.8]	353 (26.0) [-3.6]	42 (3.1) [-3.0]	1,360 (100.0)	$\chi^2(3)=32.101$ p=0.000**
世帯犯罪被害あり	25 (3.8) [-3.5]	376 (56.7) [-2.8]	223 (33.6) [3.6]	39 (5.9) [3.0]	663 (100.0)	
計	131 (6.5)	1,235 (61.0)	576 (28.5)	81 (4.0)	2,023 (100.0)	

注 1 世帯犯罪被害の有無又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

夜間の一人歩きに対する不安について、個人犯罪被害の有無別に見ると、3-1-1-1-10表のとおりであり、個人犯罪被害がない者の「まあまあ安全」並びに個人犯罪被害がある者の「やや危ない」及び「とても危ない」が、それぞれ有意に高かった。

3-1-1-1-10表 個人犯罪被害の有無別夜間の一人歩きに対する不安

区 分	とても安全	まあまあ安全	やや危ない	とても危ない	計	検定結果
個人犯罪被害なし	123 (6.5) [0.9]	1,178 (61.8) [3.5]	533 (28.0) [-3.4]	72 (3.8) [-2.1]	1,906 (100.0)	$\chi^2(3)=17.777$ p=0.000**
個人犯罪被害あり	7 (4.6) [-0.9]	72 (47.4) [-3.5]	62 (40.8) [3.4]	11 (7.2) [2.1]	152 (100.0)	
計	130 (6.3)	1,250 (60.7)	595 (28.9)	83 (4.0)	2,058 (100.0)	

注 1 個人犯罪被害の有無又は夜間の一人歩きに対する不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-1-11表は、夜間の一人歩きに対する不安について、ロジスティック回帰分析の結果を示したものである。

ロジスティック回帰分析については、夜間の一人歩き不安の有無を目的変数とし、クロス集計で有意な関係にあった変数等を説明変数とした。回帰式への投入は、変数減少法によるステップワイズ(尤度比)手法を選択した(抽出基準は0.05)。説明変数の中から、最もよく目的変数を説明できる

ものを採用し、組み合わせることで、どの属性等（説明変数）がどのような強さで犯罪被害の有無（目的変数）に関係しているかを示した。

本章の分析で用いた変数とそのカテゴリの分割は、以下のとおりである。カテゴリは、分析を分かりやすくするため、クロス集計で用いたカテゴリよりまとめた形にした。

● **目的変数：**

- ・ 夜間の一人歩きに対する不安（「とても危ない」、「やや危ない」を1、「とても安全である」、「まあまあ安全である」を0）

● **説明変数：**

- ・ 都市規模（政令指定都市／人口10万人以上／人口10万人未満）
- ・ 住居形態（アパート・マンション・テラスハウス・長屋／一戸建て住宅）
- ・ 世帯人数（1人／2～3人／4人以上）
- ・ 性別（女性／男性）
- ・ 年齢（39歳以下／40～59歳／60歳以上）
- ・ 就業状況（働いている／学生／主婦・主夫・無職・定年退職）
- ・ 婚姻状況（独身／既婚・同棲／離婚・別居・死別）
- ・ 世帯犯罪被害（あり／なし）
- ・ 個人犯罪被害（あり／なし）

夜間の一人歩きに対する不安については、性別、年齢、婚姻状況、世帯犯罪被害及び個人犯罪被害が有意としてモデルに採用された。夜間の一人歩きに対して不安に関するオッズ比は、女性は男性に対して1.946 (P=0.000)、40～59歳は60歳以上に対して1.428 (P=0.005)、39歳以下は60歳以上に対して2.118 (P=0.000)、既婚・同棲は離婚・別居等に対して1.478 (P=0.041)、世帯犯罪被害のある者は世帯犯罪被害のない者に対して1.468 (P=0.001)、個人犯罪被害のある者は個人犯罪被害のない者に対して1.555 (P=0.023) であり、有意差を認めた。夜間の一人歩きに対する不安においては、女性は男性に比べて、59歳以下は60歳以上に比べて、既婚・同棲が離婚・別居等に比べて、世帯犯罪被害ありがなしに比べて、個人犯罪被害ありがなしに比べて、不安を感じる傾向が有意に高かった。

3-1-1-1-11表 夜間の一人歩きに対する不安

説明変数	変数の概要 (括弧内は参照カテゴリ)	係数	標準誤差	Wald 統計量	有意確率	オッズ比	オッズ比の 95%信頼区間 (下限/上限)	
住居形態	一戸建て / (アパート等)	0.223	0.127	3.093	0.079	1.250	0.975	1.604
性別	女 / (男)	0.666	0.106	39.083	0.000	1.946	1.579	2.397
年齢	39歳以下 / (60歳以上)	0.750	0.163	21.208	0.000	2.118	1.539	2.915
	40~59歳 / (60歳以上)	0.356	0.127	7.936	0.005	1.428	1.115	1.830
婚姻状況	独身 / (離婚・別居等)	-0.255	0.247	1.069	0.301	0.775	0.478	1.257
	既婚・同棲 / (離婚・別居等)	0.391	0.191	4.172	0.041	1.478	1.016	2.151
世帯犯罪被害	あり / (なし)	0.384	0.110	12.084	0.001	1.468	1.182	1.823
個人犯罪被害	あり / (なし)	0.441	0.194	5.162	0.023	1.555	1.062	2.275
定数		-1.980	0.221	80.193	0.000	0.138		

注 1 「住居形態」については、公共の施設等は分析から除外している。
 2 分析に使用したケース数は、1,784件である。
 3 「都市規模」, 「世帯人数」及び「就業状況」は、モデルに採用されなかった。

2 不法侵入の被害に遭う不安

不法侵入の被害に遭う不安について、都市規模及び世帯人数別に見ると、特に有意な関連性は見られなかった(3-1-1-2-1表及び3-1-1-2-2表)。

3-1-1-2-1表 都市規模別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常に あり得る	あり得る	ま ず あり得ない	計	検定結果
政令指定都市	10 (2.6) [0.2]	208 (53.1) [-2.4]	174 (44.4) [2.4]	392 (100.0)	$\chi^2(4)=7.917$ p=0.095
政令指定都市を 除く人口10万人 以上の市	13 (1.9) [-1.1]	413 (61.2) [2.0]	249 (36.9) [-1.7]	675 (100.0)	
人口10万人未満 の市町村	15 (3.0) [1.0]	289 (58.4) [0.1]	191 (38.6) [-0.4]	495 (100.0)	
計	38 (2.4)	910 (58.3)	614 (39.3)	1,562 (100.0)	

注 1 不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。
 2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-2-2表 世帯人数別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常にあり得る	あり得る	まずあり得ない	計	検定結果
1人	3 (2.0) [-0.4]	72 (47.7) [-2.8]	76 (50.3) [2.9]	151 (100.0)	$\chi^2(8)=13.795$ $p=0.087$
2人	12 (2.8) [0.5]	234 (54.9) [-1.6]	180 (42.3) [1.5]	426 (100.0)	
3人	9 (2.4) [-0.0]	223 (60.4) [1.0]	137 (37.1) [-1.0]	369 (100.0)	
4人	8 (2.4) [-0.1]	211 (62.4) [1.8]	119 (35.2) [-1.7]	338 (100.0)	
5人以上	6 (2.4) [-0.1]	156 (61.2) [1.0]	93 (36.5) [-1.0]	255 (100.0)	
計	38 (2.5)	896 (58.2)	605 (39.3)	1,539 (100.0)	

注 1 世帯人数又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。
 2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

不法侵入の被害に遭う不安について、住居形態別に見ると、3-1-1-2-3表のとおりであり、アパート等の「まずあり得ない」及び一戸建ての「あり得る」が有意に高かった。

3-1-1-2-3表 住居形態別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常にあり得る	あり得る	まずあり得ない	計	検定結果
アパート等	8 (2.0) [-0.6]	195 (49.4) [-4.2]	192 (48.6) [4.4]	395 (100.0)	(m) $p=0.002^{**}$
一戸建て	30 (2.6) [0.8]	702 (61.4) [4.1]	411 (36.0) [-4.4]	1,143 (100.0)	
その他	- [-0.7]	12 (57.1) [-0.1]	9 (42.9) [0.3]	21 (100.0)	
計	38 (2.4)	909 (58.3)	612 (39.3)	1,559 (100.0)	

注 1 住居形態又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。
 2 「その他」は、病院、老人ホーム等の公共施設を含む。
 3 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

不法侵入の被害に遭う不安について、男女別、年齢層別及び就業状況別に見ると、特に有意な関連性は見られなかった(3-1-1-2-4表、3-1-1-2-5表及び3-1-1-2-6表)。

3-1-1-2-4表 男女別不法侵入の被害に遭う不安

区 分	非 常 に あり得る	あり得る	ま ず あり得ない	計	検定結果
男性	17 (2.1) [-0.8]	450 (56.7) [-1.2]	326 (41.1) [1.5]	793 (100.0)	$\chi^2(2)=2.559$ p=0.278
女性	21 (2.7) [0.8]	459 (59.8) [1.2]	287 (37.4) [-1.5]	767 (100.0)	
計	38 (2.4)	909 (58.3)	613 (39.3)	1,560 (100.0)	

注 1 性別又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり，[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-2-5表 年齢層別不法侵入の被害に遭う不安

区 分	非 常 に あり得る	あり得る	ま ず あり得ない	計	検定結果
39歳以下	12 (3.1) [1.2]	216 (56.4) [-1.0]	155 (40.5) [0.6]	383 (100.0)	$\chi^2(4)=2.654$ p=0.617
40～59歳	12 (2.3) [-0.1]	319 (60.2) [1.0]	199 (37.5) [-1.0]	530 (100.0)	
60歳以上	12 (1.9) [-0.9]	365 (58.3) [-0.1]	249 (39.8) [0.4]	626 (100.0)	
計	36 (2.3)	900 (58.5)	603 (39.2)	1,539 (100.0)	

注 1 年齢又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり，[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-2-6表 就業状況別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常にあり得る	あり得る	まずあり得ない	計	検定結果
働いている	14 (1.8) [-1.5]	464 (59.0) [0.6]	309 (39.3) [-0.2]	787 (100.0)	$\chi^2(8)=11.320$ $p=0.184$
主婦・主夫	6 (1.9) [-0.6]	186 (59.4) [0.5]	121 (38.7) [-0.3]	313 (100.0)	
無職・定年	10 (3.6) [1.5]	164 (59.2) [0.4]	103 (37.2) [-0.9]	277 (100.0)	
学生	4 (4.6) [1.4]	39 (44.8) [-2.6]	44 (50.6) [2.2]	87 (100.0)	
その他	2 (3.0) [0.4]	37 (56.1) [-0.4]	27 (40.9) [0.2]	66 (100.0)	
計	36 (2.4)	890 (58.2)	604 (39.5)	1,530 (100.0)	

注 1 就業状況又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。
 2 ()内は、構成比であり，[]内は、調整済み残差である。

不法侵入の被害に遭う不安について、婚姻状況別に見ると、3-1-1-2-7表のとおりであり、独身の「まずあり得ない」及び既婚・同棲の「あり得る」が、有意に高かった。

3-1-1-2-7表 婚姻状況別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常にあり得る	あり得る	まずあり得ない	計	検定結果
独身	9 (3.1) [0.8]	145 (49.7) [-3.3]	138 (47.3) [3.1]	292 (100.0)	$\chi^2(6)=13.276$ $p=0.039*$
既婚・同棲	24 (2.3) [-0.6]	649 (61.1) [3.4]	390 (36.7) [-3.3]	1,063 (100.0)	
離婚・別居	2 (2.6) [0.1]	42 (53.8) [-0.8]	34 (43.6) [0.8]	78 (100.0)	
配偶者死亡	2 (2.1) [-0.2]	53 (55.8) [-0.5]	40 (42.1) [0.6]	95 (100.0)	
計	37 (2.4)	889 (58.2)	602 (39.4)	1,528 (100.0)	

注 1 婚姻状況又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。
 2 ()内は、構成比であり，[]内は、調整済み残差である。

不法侵入の被害に遭う不安について、全犯罪被害、世帯犯罪被害及び個人犯罪被害の有無別に見ると、いずれにおいても犯罪被害がない者の「まずあり得ない」、犯罪被害がある者の「非常にあり得る」及び「あり得る」が、有意に高かった(3-1-1-2-8表、3-1-1-2-9表及び3-1-1-2-10表)。

3-1-1-2-8表 全犯罪被害の有無別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常にあり得る	あり得る	まずあり得ない	計	検定結果
全犯罪被害なし	10 (1.1) [-4.3]	493 (52.8) [-5.6]	431 (46.1) [7.0]	934 (100.0)	$\chi^2(2)=60.471$ p=0.000**
全犯罪被害あり	26 (4.6) [4.3]	382 (67.4) [5.6]	159 (28.0) [-7.0]	567 (100.0)	
計	36 (2.4)	875 (58.3)	590 (39.3)	1,501 (100.0)	

注 1 全犯罪被害の有無又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-2-9表 世帯犯罪被害の有無別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常にあり得る	あり得る	まずあり得ない	計	検定結果
世帯犯罪被害なし	10 (1.0) [-4.8]	527 (53.4) [-5.2]	450 (45.6) [6.7]	987 (100.0)	$\chi^2(2)=61.413$ p=0.000**
世帯犯罪被害あり	26 (5.0) [4.8]	349 (67.2) [5.2]	144 (27.7) [-6.7]	519 (100.0)	
計	36 (2.4)	876 (58.2)	594 (39.4)	1,506 (100.0)	

注 1 世帯犯罪被害の有無又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-2-10表 個人犯罪被害の有無別不法侵入の被害に遭う不安

区分	非常にあり得る	あり得る	まずあり得ない	計	検定結果
個人犯罪被害なし	31 (2.2) [-2.6]	813 (57.2) [-3.0]	577 (40.6) [3.9]	1,421 (100.0)	$\chi^2(2)=19.268$ p=0.000**
個人犯罪被害あり	7 (6.0) [2.6]	83 (71.6) [3.0]	26 (22.4) [-3.9]	116 (100.0)	
計	38 (2.5)	896 (58.3)	603 (39.2)	1,537 (100.0)	

注 1 個人犯罪被害の有無又は不法侵入の被害に遭う不安が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-1-2-11表は、不法侵入の被害に遭う不安について、ロジスティック回帰分析の結果を示したも

のである。

ロジスティック回帰分析については、不法侵入の被害に遭う不安の有無を目的変数とし、クロス集計で有意な関係にあった変数等を説明変数とした。回帰式への投入は、変数減少法によるステップワイズ（尤度比）手法を選択した（抽出基準は0.05）。説明変数の中から、最もよく目的変数を説明できるものを採用し、組み合わせることで、どの属性等（説明変数）がどのような強さで犯罪被害の有無（目的変数）に関係しているかを示した。

本章の分析で用いた変数とそのカテゴリの分割は、以下のとおりである。カテゴリは、分析を分かりやすくするため、クロス集計で用いたカテゴリよりまとめた形にした。

● **目的変数：**

- ・ 不法侵入の被害に遭う不安（「非常にあり得る」又は「あり得る」を1，「まずあり得ない」を0）

● **説明変数：**

- ・ 都市規模（政令指定都市／人口10万人以上／人口10万人未満）
- ・ 住居形態（アパート・マンション・テラスハウス・長屋／一戸建て住宅）
- ・ 世帯人数（1人／2～3人／4人以上）
- ・ 性別（女性／男性）
- ・ 年齢（39歳以下／40～59歳／60歳以上）
- ・ 就業状況（働いている／学生／主婦・主夫・無職・定年退職）
- ・ 婚姻状況（独身／既婚・同棲／離婚・別居・死別）
- ・ 世帯犯罪被害（あり／なし）
- ・ 個人犯罪被害（あり／なし）

不法侵入の被害に遭う不安については、住居形態、性別、世帯犯罪被害及び個人犯罪被害が有意としてモデルに採用された。不法侵入の被害に遭う不安に関するオッズ比は、一戸建て住宅がアパート等に対して1.792（ $P=0.000$ ）、女性が男性に対して1.270（ $P=0.041$ ）、世帯犯罪被害のある者が世帯犯罪被害のない者に対して1.983（ $P=0.000$ ）、個人犯罪被害のある者の方が個人犯罪被害のない者に対して2.239（ $P=0.002$ ）であり、有意差を認めた。不法侵入の被害に遭う不安においては、一戸建て住宅がそれ以外に比べて、女性が男性に比べて、世帯犯罪被害ありがなしに比べて、個人犯罪被害ありがなしに比べて、不安を感じる傾向が有意に高かった。

3-1-1-2-11表 不法侵入の被害に遭う不安

説明変数	変数の概要 (括弧内は参照カテゴリ)	係数	標準誤差	Wald 統計量	有意確率	オッズ比	オッズ比の 95%信頼区間 (下限/上限)	
住居形態	一戸建て / (アパート等)	0.583	0.131	19.803	0.000	1.792	1.386	2.317
性別	女 / (男)	0.239	0.117	4.187	0.041	1.270	1.010	1.597
婚姻状況	独身 / (離婚・別居等)	-0.229	0.222	1.065	0.302	0.795	0.515	1.229
	既婚・同棲 / (離婚・別居等)	0.311	0.190	2.681	0.102	1.365	0.941	1.981
世帯犯罪被害	あり / (なし)	0.684	0.128	28.528	0.000	1.983	1.542	2.549
個人犯罪被害	あり / (なし)	0.806	0.255	10.019	0.002	2.239	1.359	3.689
定数		-0.556	0.217	6.580	0.010	0.573		

注 1 「住居形態」については、公共の施設等は分析から除外している。

2 分析に使用したケース数は、1,336件である。

3 「都市規模」、「世帯人数」、「年齢」及び「就業状況」は、モデルに採用されなかった。

3 まとめ

居住地域における犯罪被害に対する不安をまとめると、以下のとおりである。

- ① 世帯人数別に、夜間の一人歩きに対する不安を見ると、世帯人数が多いほど不安は高かった。
- ② 住居形態別に、自宅に不法侵入の被害に遭う不安について見ると、一戸建て住宅の不安が高かった。
- ③ 男女別に、夜間の一人歩きに対する不安について見ると、女性の不安が高かった。
- ④ 年齢層別に、夜間の一人歩きに対する不安について見ると、59歳以下の不安が高かった。
- ⑤ 就業状況別に、夜間の一人歩きに対する不安について見ると、女性が大部分を占める主婦・主夫の不安が高かった。また、働いている者は不安及び安心が高い結果であったが、内数から女性の不安が影響していると考えられた。同時に、無職・定年の安心が高かった。
- ⑥ 婚姻状況別に、夜間の一人歩きに対する不安及び自宅に不法侵入の被害に遭う不安について見ると、既婚・同棲の不安が高かった。
- ⑦ 全犯罪被害の有無別に、夜間の一人歩きに対する不安及び自宅に不法侵入の被害に遭う不安について見ると、全犯罪被害のある者は、不安が高かった。
- ⑧ 世帯犯罪被害及び個人犯罪被害の有無別に、夜間の一人歩きに対する不安及び自宅に不法侵入の被害に遭う不安について見ると、それぞれ被害がある者の不安が高かった。
- ⑨ 夜間の一人歩きに対する不安について、ロジスティック回帰分析によると、60歳以上よりも59歳以下、男性よりも女性、個人犯罪被害がない者よりもある者、離婚・別居等よりも既婚・同棲、世帯犯罪被害がない者よりもある者は、不安を感じる傾向が高かった。
- ⑩ 自宅に不法侵入の被害に遭う不安について、ロジスティック回帰分析によると、個人犯罪被害

のない者よりもある者、世帯犯罪被害のない者よりもある者、アパート等よりも一戸建て住宅、男性よりも女性は、不安を感じる傾向が高かった。

- ⑪ 自動車盗及びバイク盗において、一戸建て住宅よりもアパート等の被害率が高いものの、住居形態において一戸建て住宅の方が、不法侵入被害に遭う不安に高い傾向を示す点については、第3回調査と同様であり、実際の被害率における傾向とは相違した結果であった。

第2節 我が国の治安に関する認識

本節では、我が国の治安に関する認識を取り上げて、都市規模別、世帯人数別等に分析し、我が国の治安に関する認識に影響を与えている要因について検討する。

なお、我が国の治安に関する認識は、「我が国全体の治安について、あなたのご意見をお聞かせください。あなたは、今の我が国の治安について、どの程度であると思いますか。現時点のことについて、考えてみてください。」の項目を使用した。

1 我が国の治安に関する認識

我が国の治安に関する認識について、都市規模、世帯人数及び住居形態別に見ると、特に有意な関連性は見られなかった（3-1-2-1-1表、3-1-2-1-2表及び3-1-2-1-3表）。

3-1-2-1-1表 都市規模別我が国の治安に関する認識

区分	とても良い	まあまあ良い	良くも悪くもない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
政令指定都市	15 (2.9) [0.8]	177 (34.1) [1.3]	158 (30.4) [-0.3]	145 (27.9) [-0.4]	24 (4.6) [-1.7]	519 (100.0)	$\chi^2(8)=8.160$ p=0.418
政令指定都市を除く人口10万人以上の市	25 (2.8) [0.9]	285 (31.9) [0.0]	276 (30.9) [-0.0]	250 (28.0) [-0.6]	58 (6.5) [0.5]	894 (100.0)	
人口10万人未満の市町村	10 (1.6) [-1.7]	192 (30.0) [-1.2]	200 (31.3) [0.2]	193 (30.2) [1.0]	45 (7.0) [1.1]	640 (100.0)	
計	50 (2.4)	654 (31.9)	634 (30.9)	588 (28.6)	127 (6.2)	2,053 (100.0)	

注 1 治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-2-1-2表 世帯人数別我が国の治安に関する認識

区 分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
1人	8 (4.2) [1.7]	71 (37.0) [1.5]	46 (24.0) [-2.2]	56 (29.2) [0.2]	11 (5.7) [-0.2]	192 (100.0)	$\chi^2(16)=17.399$ p=0.360
2人	16 (2.9) [0.8]	184 (33.0) [0.6]	168 (30.2) [-0.5]	157 (28.2) [-0.3]	32 (5.7) [-0.3]	557 (100.0)	
3人	14 (2.9) [0.7]	149 (30.3) [-0.9]	149 (30.3) [-0.3]	147 (29.9) [0.8]	32 (6.5) [0.5]	491 (100.0)	
4人	7 (1.5) [-1.4]	147 (32.0) [-0.0]	148 (32.2) [0.7]	126 (27.4) [-0.7]	32 (7.0) [1.0]	460 (100.0)	
5人以上	4 (1.2) [-1.5]	97 (29.9) [-0.9]	115 (35.5) [1.9]	93 (28.7) [0.0]	15 (4.6) [-1.2]	324 (100.0)	
計	49 (2.4)	648 (32.0)	626 (30.9)	579 (28.6)	122 (6.0)	2,024 (100.0)	

注 1 世帯人数又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-2-1-3表 住居形態別我が国の治安に関する認識

区 分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
アパート等	19 (3.7) [2.1]	172 (33.1) [0.7]	162 (31.2) [0.2]	130 (25.0) [-2.1]	36 (6.9) [0.8]	519 (100.0)	^(m) p=0.205
一戸建て	31 (2.1) [-1.8]	476 (31.7) [-0.3]	459 (30.6) [-0.4]	445 (29.7) [1.8]	89 (5.9) [-0.8]	1,500 (100.0)	
その他	- [-0.9]	6 (20.0) [-1.4]	11 (36.7) [0.7]	11 (36.7) [1.0]	2 (6.7) [0.1]	30 (100.0)	
計	50 (2.4)	654 (31.9)	632 (30.8)	586 (28.6)	127 (6.2)	2,049 (100.0)	

注 1 住居形態又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 「その他」は、病院、老人ホーム等の公共施設を含む。

3 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

我が国の治安に関する認識について、男女別に見ると、3-1-2-1-4表のとおりであり、男性の「とても良い」及び「まあまあ良い」並びに女性の「良くも悪くもない」及び「やや悪い」が、有意に高かった。

3-1-2-1-4表 男女別我が国の治安に関する認識

区 分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
男性	35 (3.5) [3.1]	362 (36.3) [4.2]	276 (27.7) [-3.1]	264 (26.5) [-2.0]	60 (6.0) [-0.3]	997 (100.0)	$\chi^2(4)=30.342$ p=0.000**
女性	15 (1.4) [-3.1]	292 (27.8) [-4.2]	357 (33.9) [3.1]	321 (30.5) [2.0]	67 (6.4) [0.3]	1,052 (100.0)	
計	50 (2.4)	654 (31.9)	633 (30.9)	585 (28.6)	127 (6.2)	2,049 (100.0)	

注 1 性別又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

我が国の治安に関する認識について、年齢層別に見ると、特に有意な関連性は見られなかった(3-1-2-1-5表)。

3-1-2-1-5表 年齢層別我が国の治安に関する認識

区 分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
39歳以下	17 (3.3) [1.5]	152 (29.5) [-1.4]	162 (31.5) [0.2]	143 (27.8) [-0.4]	41 (8.0) [2.2]	515 (100.0)	$\chi^2(8)=10.411$ p=0.237
40～59歳	17 (2.5) [0.1]	225 (32.5) [0.4]	225 (32.5) [1.0]	190 (27.5) [-0.7]	35 (5.1) [-1.3]	692 (100.0)	
60歳以上	15 (1.9) [-1.4]	268 (33.2) [0.9]	240 (29.7) [-1.1]	240 (29.7) [1.0]	45 (5.6) [-0.7]	808 (100.0)	
計	49 (2.4)	645 (32.0)	627 (31.1)	573 (28.4)	121 (6.0)	2,015 (100.0)	

注 1 年齢又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

我が国の治安に関する認識について、就業状況別に見たところ、3-1-2-1-6表のとおりであり、働いている者の「まあまあ良い」並びに主婦・主夫の「良くも悪くもない」及び「やや悪い」が、有意に高かった。なお、主婦・主夫は、女性が435名を占めている。

3-1-2-1-6表 就業状況別我が国の治安に関する認識

区分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
働いている	29 (2.9) [1.2]	358 (35.2) [3.3]	298 (29.3) [-1.8]	272 (26.7) [-1.6]	60 (5.9) [-0.5]	1,017 (100.0)	$\chi^2(16)=35.924$ $p=0.003^{**}$
主婦・主夫	4 (0.9) [-2.4]	109 (24.7) [-3.6]	155 (35.1) [2.0]	142 (32.2) [2.0]	31 (7.0) [0.8]	441 (100.0)	
無職・定年	6 (1.7) [-0.9]	110 (32.1) [0.1]	106 (30.9) [-0.1]	99 (28.9) [0.2]	22 (6.4) [0.2]	343 (100.0)	
学生	4 (3.5) [0.8]	40 (35.1) [0.8]	39 (34.2) [0.7]	25 (21.9) [-1.6]	6 (5.3) [-0.4]	114 (100.0)	
その他	6 (6.6) [2.6]	22 (24.2) [-1.6]	27 (29.7) [-0.3]	31 (34.1) [1.2]	5 (5.5) [-0.3]	91 (100.0)	
計	49 (2.4)	639 (31.9)	625 (31.2)	569 (28.4)	124 (6.2)	2,006 (100.0)	

注 1 就業状況又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

我が国の治安に関する認識について、婚姻状況別に見ると、特に有意な関連性は見られなかった(3-1-2-1-7表)。

3-1-2-1-7表 婚姻状況別我が国の治安に関する認識

区分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
独身	14 (3.5) [1.5]	128 (32.0) [-0.1]	120 (30.0) [-0.3]	109 (27.3) [-0.6]	29 (7.3) [0.9]	400 (100.0)	$\chi^2(12)=11.894$ $p=0.454$
既婚・同棲	27 (1.9) [-2.3]	454 (32.4) [0.3]	438 (31.3) [1.1]	401 (28.6) [0.2]	80 (5.7) [-1.5]	1,400 (100.0)	
離婚・別居	5 (5.6) [2.0]	26 (28.9) [-0.7]	26 (28.9) [-0.4]	25 (27.8) [-0.2]	8 (8.9) [1.1]	90 (100.0)	
配偶者死亡	3 (2.6) [0.1]	38 (33.0) [0.2]	29 (25.2) [-1.3]	37 (32.2) [0.9]	8 (7.0) [0.3]	115 (100.0)	
計	49 (2.4)	646 (32.2)	613 (30.6)	572 (28.5)	125 (6.2)	2,005 (100.0)	

注 1 婚姻状況又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

我が国の治安に関する認識について、全犯罪被害の有無別に見ると、3-1-2-1-8表のとおりであり、全犯罪被害のない者は「とても良い」、犯罪被害のある者は「やや悪い」及び「とても悪い」が有意に高かった。

3-1-2-1-8表 全犯罪被害の有無別我が国の治安に関する認識

区 分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
全犯罪被害なし	38 (3.1) [2.1]	406 (32.7) [1.0]	399 (32.2) [1.7]	334 (26.9) [-2.1]	63 (5.1) [-2.7]	1,240 (100.0)	$\chi^2(4)=17.189$ p=0.002**
全犯罪被害あり	11 (1.5) [-2.1]	221 (30.5) [-1.0]	206 (28.5) [-1.7]	227 (31.4) [2.1]	59 (8.1) [2.7]	724 (100.0)	
計	49 (2.5)	627 (31.9)	605 (30.8)	561 (28.6)	122 (6.2)	1,964 (100.0)	

注 1 全犯罪被害の有無又は治安に関する認識が不詳の者を除く。
2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

我が国の治安に関する認識について、世帯犯罪被害の有無別に見ると、3-1-2-1-9表のとおりであり、世帯犯罪被害のある者は、「とても悪い」が有意に高かった。

3-1-2-1-9表 世帯犯罪被害の有無別我が国の治安に関する認識

区 分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
世帯犯罪被害なし	39 (3.0) [1.9]	438 (33.2) [1.6]	414 (31.3) [0.9]	361 (27.3) [-1.9]	69 (5.2) [-2.5]	1,321 (100.0)	$\chi^2(4)=14.318$ p=0.006**
世帯犯罪被害あり	10 (1.5) [-1.9]	194 (29.6) [-1.6]	192 (29.3) [-0.9]	206 (31.5) [1.9]	53 (8.1) [2.5]	655 (100.0)	
計	49 (2.5)	632 (32.0)	606 (30.7)	567 (28.7)	122 (6.2)	1,976 (100.0)	

注 1 世帯犯罪被害の有無又は治安に関する認識が不詳の者を除く。
2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

我が国の治安に関する認識について、個人犯罪被害の有無別に見ると、3-1-2-1-10表のとおりであり、個人犯罪被害のない者の「良くも悪くもない」及び個人犯罪被害のある者の「とても悪い」が、有意に高かった。

3-1-2-1-10表 個人犯罪被害の有無別我が国の治安に関する認識

区 分	とても良い	まあまあ 良い	良くも悪く もない	やや悪い	とても悪い	計	検定結果
個人犯罪被害なし	49 (2.6) [1.5]	599 (32.1) [0.6]	594 (31.8) [2.6]	520 (27.9) [-1.7]	103 (5.5) [-3.9]	1,865 (100.0)	$\chi^2(4)=23.380$ p=0.000**
個人犯罪被害あり	1 (0.7) [-1.5]	44 (29.7) [-0.6]	32 (21.6) [-2.6]	51 (34.5) [1.7]	20 (13.5) [3.9]	148 (100.0)	
計	50 (2.5)	643 (31.9)	626 (31.1)	571 (28.4)	123 (6.1)	2,013 (100.0)	

注 1 個人犯罪被害の有無又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

3-1-2-1-11表は、我が国の治安に関する認識について、ロジスティック回帰分析の結果を示したものである。

ロジスティック回帰分析については、我が国の治安に関する認識についての有無を目的変数とし、クロス集計で有意な関係にあった変数等を説明変数とした。回帰式への投入は、変数減少法によるステップワイズ（尤度比）手法を選択した（抽出基準は0.05）。説明変数の中から、最もよく目的変数を説明できるものを採用し、組み合わせることで、どの属性等（説明変数）がどのような強さで犯罪被害の有無（目的変数）に関係しているかを示した。

本章の分析で用いた変数とそのカテゴリの分割は、以下のとおりである。カテゴリは、分析を分かりやすくするため、クロス集計で用いたカテゴリよりまとめた形にした。

● **目的変数：**

- ・ 我が国の治安に関する認識（「やや悪い」又は「悪い」を1、「とても良い」又は「まあまあ良い」を0）

● **説明変数：**

- ・ 都市規模（政令指定都市／人口10万人以上／人口10万人未満）
- ・ 住居形態（アパート・マンション・テラスハウス・長屋／一戸建て住宅）
- ・ 世帯人数（1人／2～3人／4人以上）
- ・ 性別（女性／男性）
- ・ 年齢（39歳以下／40～59歳／60歳以上）
- ・ 就業状況（働いている／学生／主婦・主夫・無職・定年退職）
- ・ 婚姻状況（独身／既婚・同棲／離婚・別居・死別）
- ・ 世帯犯罪被害（あり／なし）
- ・ 個人犯罪被害（あり／なし）

我が国の治安に関する認識については、都市規模、性別及び就業状況が有意としてモデルに採用された。我が国の治安を悪いと認識するオッズ比は、「政令指定都市」が「人口10万人未満」に対して0.631 (P=0.004)、「女性」は「男性」に対して1.458 (P=0.002)、「働いている者」は「無職・定年・主婦等」に対して0.739 (P=0.018) であり有意差を認めた。我が国の治安に関する認識においては、人口10万人未満が政令指定都市に比べて、女性が男性に比べて、無職・定年・主婦等が働いている者に比べて、不安を感じる傾向が有意に高かった。

3-1-2-1-11表 我が国の治安に関する認識

説明変数	変数の概要 (括弧内は参照カテゴリ)	係数	標準誤差	Wald 統計量	有意確率	オッズ比	オッズ比の 95%信頼区間 (下限/上限)	
都市規模	政令指定都市 / (人口10万人未満)	-0.461	0.161	8.192	0.004	0.631	0.460	0.865
	人口10万人以上 / (人口10万人未満)	-0.168	0.137	1.508	0.219	0.845	0.646	1.106
性別	女 / (男)	0.377	0.122	9.504	0.002	1.458	1.147	1.853
就業状況	働いている / (無職・定年・主婦等)	-0.303	0.128	5.552	0.018	0.739	0.574	0.950
	学生 / (無職・定年・主婦等)	-0.509	0.264	3.726	0.054	0.601	0.359	1.008
世帯犯罪被害	あり / (なし)	0.231	0.126	3.365	0.067	1.260	0.984	1.612
個人犯罪被害	あり / (なし)	0.425	0.218	3.806	0.051	1.530	0.998	2.345
定数		0.041	0.153	0.072	0.788	1.042		

注 1 分析に使用したケース数は、1,209件である。

2 「世帯人数」, 「住居形態」, 「年齢」及び「婚姻状況」は、モデルに採用されなかった。

2 まとめ

我が国の治安に関する認識をまとめると、以下のとおりである。

- ① 男女別に、我が国の治安に関する認識について見ると、女性の不安が高かった。
- ② 就業状況別に、我が国の治安に関する認識について見ると、女性が大部分を占める主婦・主夫の不安が高かった。
- ③ 全犯罪被害有無別、世帯犯罪被害有無別及び個人犯罪被害有無別に、我が国の治安に関する認識について見ると、それぞれの犯罪被害のある者に不安が高かった。
- ④ 我が国の治安に関する認識について、ロジスティック回帰分析によると、男性よりも女性、政令指定都市よりも人口10万人未満、働いている人よりも無職・定年・主婦等は、不安を感じる傾向が高かった。

第3節 居住地域における犯罪被害に対する不安と我が国の治安に関する認識

1 居住地域における犯罪被害に対する不安と我が国の治安に関する認識

居住地域における犯罪被害に対する不安と我が国の治安に関する認識の関係を見るために、以下のとおりカテゴリの分類を行った。

居住地域における犯罪被害に対する不安は、①「暗くなった後、あなたの住んでいる地域を一人で歩いているとき、どの程度安全であると感じますか（個人犯罪被害に対する不安）」及び②「今後1年間のうちに、誰かがあなたの自宅に侵入する可能性について、どのように思われますか（世帯犯罪被害に対する不安）」の2項目から構成されているが、それぞれの回答から「分からない」を除外し、前者を「夜間の一人歩き・安全」及び「夜間の一人歩き・危険」、後者を「不法侵入・あり得ない」及び「不法侵入・あり得る」とそれぞれ2分類した。

また、我が国の治安に関する認識については、「我が国全体の治安について、あなたのご意見をお聞かせください。あなたは、今の我が国の治安について、どの程度であると思いますか。現時点のことについて、考えてみてください。」について、「分からない」を除外した上で、「治安認識・良い」、「治安認識・良くも悪くもない」及び「治安認識・悪い」に3分類した。

夜間の一人歩きに対する不安と我が国の治安に関する認識については、3-1-3-1-1表のとおりであり、夜間の一人歩きを安全と感じる人は、我が国の治安を良いと認識し、夜間の一人歩きを不安と感じる人は、我が国の日本の治安を悪いと認識する傾向が見られた。

3-1-3-1-1表 夜間の一人歩きに対する不安と我が国の治安に関する認識

区分	治安認識 ・良い	治安認識・ 良くも悪くもない	治安認識 ・悪い	計	検定結果
夜間の一人 歩き・安全	545 (40.0) [7.4]	428 (31.4) [1.2]	388 (28.5) [-8.6]	1,361 (100.0)	$\chi^2(2)=84.813$ p=0.000**
夜間の一人 歩き・不安	151 (23.2) [-7.4]	188 (28.9) [-1.2]	312 (47.9) [8.6]	651 (100.0)	
計	696 (34.6)	616 (30.6)	700 (34.8)	2,012 (100.0)	

注 1 夜間の一人歩きに対する不安又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

不法侵入の被害に遭う不安と我が国の治安に関する認識については、3-1-3-1-2表のとおりであり、不法侵入をあり得ないと感じる人は、我が国の治安を良いと認識し、不法侵入をあり得ると感じる人は、我が国の治安を悪いと認識する傾向が見られた。

3-1-3-1-2表 不法侵入の被害に遭う不安と我が国の治安に関する認識

区分	治安認識 ・良い	治安認識・ 良くも悪くもない	治安認識 ・悪い	計	検定結果
不法侵入 ・あり得ない	253 (42.5) [3.8]	175 (29.4) [0.4]	167 (28.1) [-4.2]	595 (100.0)	$\chi^2(2)=21.199$ p=0.000**
不法侵入 ・あり得る	301 (32.8) [-3.8]	262 (28.5) [-0.4]	355 (38.7) [4.2]	918 (100.0)	
計	554 (36.6)	437 (28.9)	522 (34.5)	1,513 (100.0)	

注 1 不法侵入の被害に遭う不安又は治安に関する認識が不詳の者を除く。

2 ()内は、構成比であり、[]内は、調整済み残差である。

2 まとめ

これらの結果から、居住地域における犯罪被害に対する不安の高い者が、我が国の治安に関する認識を悪く捉えており、また、居住地域における犯罪被害に対する不安の低い者が、我が国の治安に関する認識を良く捉えていることが分かる。すなわち、身近な犯罪に対する不安の強さと、我が国の治安に関する懸念との間には、密接な関連があると考えられる。

おわりに

法務総合研究所による犯罪被害実態(暗数)調査は、2000年に第1回調査を行ってから、4年ごとの調査を継続して今回が4回目となり、12年間のスパンでの比較が可能となった。第1回調査から第4回調査までの被害率の変化を見ると、全犯罪についても、比較的被害率の高い自動車損壊、バイク盗及び自転車盗についても、第1回調査から第3回調査まで低下傾向にあったものが、2008年の第3回調査から2012年の第4回調査にかけて大きな変動はなく、犯罪被害率の低下が停滞しているようにも見える。また、居住地域における犯罪不安と我が国の治安に関する認識については、第3回調査から第4回調査にかけて居住地域における犯罪について不安を感じる人の比率が上昇した一方、我が国の治安については良いと認識する人の比率が上昇した。

前回の第3回調査における結果の考察では、全犯罪被害の被害率について第1回調査から第3回調査まで一貫して低下しているにもかかわらず、日本全体における治安に関する認識が悪いため、現実と認識の乖離を指摘したところである。今回、犯罪被害率の低下は停滞したが、治安認識については引き続き良くなっており、現実と認識は少し近づいたようにも思われる。一方、居住地域における犯罪について不安を感じる人の比率は高くなる傾向が続いている。犯罪被害の有無と居住地域における犯罪に対する不安とは関連があることから、第3回調査から第4回調査にかけて犯罪被害率の低下が停滞したことと関連があるかもしれない。治安認識の好転については、治安認識の理由を問うなど、より詳細な調査と検討が必要と考えられる。

今回はまた、7つの被害態様(犯罪)について、第1回調査から第4回調査までの被害率の経年変化を、対応する犯罪の認知件数の経年変化と共にグラフに掲載することで、比較を行ってみた。ただ、本調査が多数の調査対象者に対するアンケート調査により犯罪被害の実情を知ろうとするものであるのに対し、犯罪の認知件数は警察等が犯罪の発生を認知した件数であって、その捉え方は同一ではなく、この比較はあくまで参考ということに留意する必要がある。とはいえ、この比較からは、各被害態様の被害率と対応する犯罪の認知件数の経年変化について、極端に異なった動きを示しているものはない、ということはある程度言える。

ところで、第1回調査と第2回調査は国際犯罪被害実態調査(ICVS:International Crime Victimization Survey)に参加する形で行い、法務総合研究所においても、それぞれの結果に基づいて、我が国を中心にICVSを踏まえた国際比較研究を行った。その後、ICVSは、インターネットによる調査方法の可能性を探るためのICVS2010パイロット調査を2010年に実施している。他方、我が国では、第1回調査から第3回調査まで訪問調査員による聞き取り方式を用いたが、第4回は郵送調査によった。そのため、今回は各質問における無回答の比率が高く、分析に当たって無回答の数を慎重に扱う必要が生じた。犯罪被害実態

調査等この種の調査においては、調査方法によって結果が変わる可能性があることについて留意する必要があると思われる。警察への申告率が低いとされる性犯罪や報復のおそれのある知人等による暴力犯罪等は、アンケート調査であっても正直に回答することは躊躇され、依然として暗数に留まる可能性が残ることが課題として指摘されている。暗数の実態に近づくには、調査方法や質問方法をさらに工夫し、より大規模な調査を実施することが望ましいと考えられる。

第1回調査から今回までの犯罪被害実態（暗数）調査により、犯罪発生の動向や被害の有無と被害者の属性との関係、さらには、犯罪についての不安や治安認識に関して有用な知見が豊富に得られたものとする。今後の調査については、より正確に実態が捉えられるよう調査方法について更に工夫を重ねていくこととしたい。